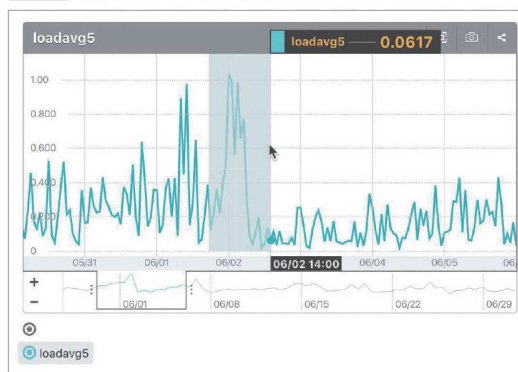


図2-36 範囲選択による表示範囲の変更



● グラフアノテーション

これは言葉で説明するよりも実際のグラフを見てもらうほうが速いので、[図2-37](#)をご覧ください。

図2-37 グラフアノテーションの様子

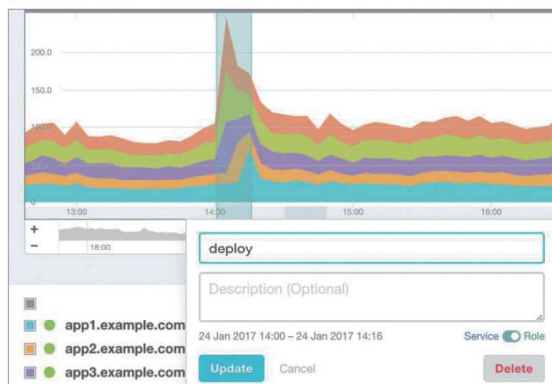
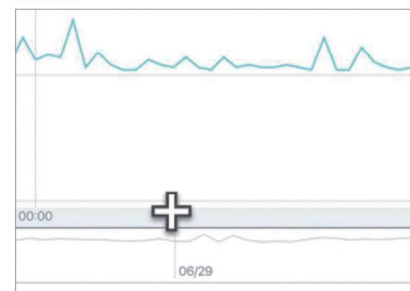


図2-38 グラフアノテーションをWebUI上から作成



● カメラボタン

各グラフの右上にあるボタンのうち、カメラのアイコンが描かれているものがカメラボタンです ([図2-39](#))。

図2-39 カメラボタン



このように、グラフの任意のタイミングにタイトルやそのメモとともに、アノテーション (注釈) を残すことができる機能です。WebUIだけでなく、APIで登録することもできるので、デプロイフローを自動化している場合にはそのフローにAPIリクエストを挿入するだけで、アノテーションを自動的に残すことができます。この機能は、グラフの急な盛り上がりなどの原因を切り分ける際に、非常に便利です。

WebUIからグラフアノテーションを作成する場合は、グラフ表示部分とスライダー表示部分の間、時間軸のところを範囲選択することで作成できます。マウスカーソルが[図2-38](#)のように変化する部分です。